

概要

静岡新聞社では、静岡放送とともに、2006年の新聞創刊65周年・放送開局55周年を機にスタートした「静岡かがく特捜隊」と、パパ、ママが地域で自然に仲間と触れ合える場を提供する「ハッピーズ!!子育て未来部」を合わせた「こどもみらいプロジェクト」を推進しています。

プロジェクトの一環として、毎年7月と10月の各2日間に一般親子を参加対象とした無料の大型イベントを開催しています。内容は、「ダンス」「天気ふしぎかがく」「協賛社」の各ステージや「親子体操コーナー」、また静岡新聞SBSコーナーとして、「新聞プール」「新聞紙でかがくしよう」など、新聞・テレビ・ラジオのPRを兼ねながら親子で学んで遊べるコーナーを設けています。協賛社ステージ・ブースについては、事前に新聞等でイベントを告知して協賛企業を募り、出展してもらいます。

2013年には、会場内で「2020年のぼく、わたしは？」という題で夢を書いてもらい、後日、小中学生向けタブロイド紙「YOMOっと静岡」内で紹介し、こどもみらいプロジェクト公式サイト「おやこアットエス」にも掲載しました。

プロジェクトのもう一つの柱として、無料の「絵本リサイクル&読み聞かせイベント」を毎月1回実施しています。新聞等で告知し、協賛企業の施設内でフリーアナウンサーが読み聞かせをするキャラバンを県内12か所で実施、その模様をラジオ収録し、後日放送もしています。



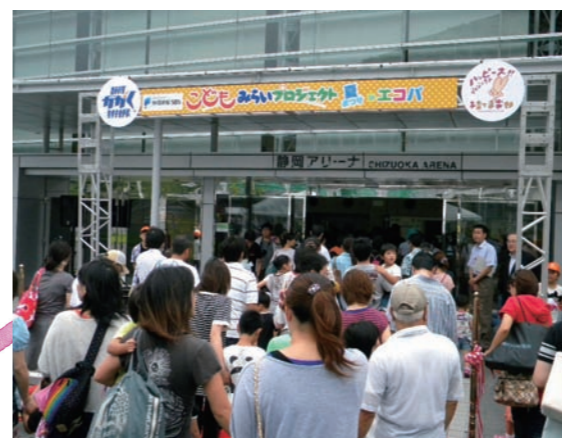
2013年のイベント会場で2020年の自分について書いてもらい、小中学生向けタブロイド紙「YOMOっと静岡」で紹介

企画が生まれた背景や意図・ねらい

「親の笑顔は子どもに映る」——パパ、ママが子育て仲間や地域で子育てをサポートしてくれる人たちと自然に触れ合える場を提供し、地域みんなで支え合って子育てできる環境づくりを積極的にサポートしていくことを目的に、新聞・テレビ・ラジオ・ウェブの4媒体連動の企画を立案・実施するため、社内でプロジェクトチームを作りました。親世代への媒体からの訴求、将来を担う子どもたちへの情報発信、「子育てなら静岡新聞SBS」というイメージの定着を狙っています。

反響

7・10月の大型イベントや、絵本読み聞かせの通年企画などを通じて年間5万人以上を動員し、子育て支援事業として県民に定着しています。行政・大学生・子育て支援関連団体との連携も図り、地域一体となった展開が実現しています。また、クライアントごとの企画展開をするなど、営業面での活用も行っています。



開場と同時に多くの親子連れが来場（2013年7月）



「新聞プール」の様子（2013年7月）



子どもたちによるステージ（2013年10月）



新聞でカブトなどを作るコーナー（2013年10月）